

B グループの発表に関する質疑応答

B の文献： 佐伯啓思『経済学の犯罪』 講談社文庫 2012 年

A：今後の低成長の問題をどう解決するか

→低成長が問題ではなく、価値観の転換（317 頁）が重要である。具体的には、「ポスト工業社会」への転換や「ポスト希少性の経済」への転換など（302～308 頁）。

D：第三章で言う「金融型の成長モデル」のどの点が問題になって金融危機を招いたのか。

→実体をともなわないことが無理な成長に繋がってそれがいつか止まってしまう。また貨幣が過剰になる。

〔参考〕金融型の成長モデルでは「金融市場や不動産市場でバブルを発生させる」（96 頁）、
「バブルはやがて崩壊する」（97 頁）。そのあとの「信用の収縮は実体経済への資金の循環を阻害し、実体経済そのものが大きな打撃を受ける」（97 頁）。

先生：第一章では非正規雇用や需要不足（32 頁）などが書いてあるが、第九章では今の社会を「豊かな社会」（284 頁）と書いてある。これは矛盾ではないのか。

→確かに矛盾しているように見える。だが、筆者はバブル崩壊後の 1990 年代と比べて現在の日本経済は豊かだと考えているのだろうと B 班は推測している。

〔先生の補足〕第 9 章の冒頭に「豊かな社会＝過剰化社会」「第 1 章でも述べたように、1990 年代半ばから今日に至るまで日本経済は名目成長率が平均してゼロに近い水準で推移している」と書かれており、「1990 年代」と「現在」とを比べてはいない。

また第 9 章の 291 頁には「生産能力の過剰性を処理することができない。それを吸収するだけの有効需要が生み出されない。その結果として『豊かさのなかの停滞』に陥っている」と書かれている。この「有効需要」の不足の主因は非正規雇用の蔓延であり、その社会は「豊か」とは言えないものである。

以上